

コレクション展示

日本と西洋の近代美術 II

期間限定  
公開

**ピカソ**

**ゲルニカ (タピスリ)**

**Picasso: Guernica Tapisserie**

**2021 7.3 SAT – 8.22 SUN**



パブロ・ピカソ《ゲルニカ (タピスリ)》1983年 (原画は1937年) タピスリ・ウール、綿  
328.0×680.0cm (織り：ジャクリヌ・ド・ラ・ボーム=デュルバック) 展示風景

パブロ・ピカソは、自身の絵画を織物工房と共同してタピスリ (つづれ織りの壁掛け) に再現しました。当館では世界に3点ある《ゲルニカ》 (タピスリ) のうち1点を所蔵しており、年に1度、期間を限定して展示しています。この機会にぜひご覧ください。

- 会 期** 7月3日(土)~8月22日(日)  
**会 場** 群馬県立近代美術館 2階 展示室 2  
**開館時間** 9:30~17:00 (入館は16:30まで)  
\*月曜及び8月10日(火)は休館  
(ただし8月9日、16日は開館)、  
**観 覧 料** 一般 300円[240円]、  
大学・高校生 150円[120円]  
\*[ ]内は20名以上の団体割引  
料金  
\*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

#### 《ゲルニカ (タピスリ)》 (1983年)

ピカソや同時代の画家たちは、建築と芸術の統合を求め、自身の絵画作品を室内に飾るタピスリにするプロジェクトに取り組みました。ほぼ原寸大に再現されたタピスリは、3点作られました。第1の作品は最近までニューヨーク国連本部の安全保障理事会議場前に飾られ、第2の作品はフランスのドイツ国境に位置し第二次世界大戦の激戦地であったコルマルのウンターリンデン美術館が所蔵しています。第3の作品(1983年)が当館所属のものです。

#### ピカソ《ゲルニカ》油彩画、1937年について

スペインは1930年代に王制から共和制に移行すると、フランコ将軍が右派の支持を受けて台頭。ナチス・ドイツなどの支援を受けて反乱を起し、スペイン内戦が勃発します。1937年4月26日、バスク地方の小都市ゲルニカで、フランコ軍を支援するナチス空軍によって市民に向けて無差別空爆が行われました。

当時パリで活動していたピカソは、祖国で起こったこの蛮行に激しい怒りを覚え、わずか1か月ほどで縦3.5m、幅7.7mの大作《ゲルニカ》を完成させました。同年5月にパリ万国博覧会のスペイン館で初公開されたこの作品は現在、スペイン、マドリードの国立ソフィア王妃芸術センターで見ることができます。

#### 【問い合わせ先】

群馬県立近代美術館  
〒370-1293 群馬県高崎市綿貫町 992-1  
TEL.027-346-5560 FAX.027-346-4064

